

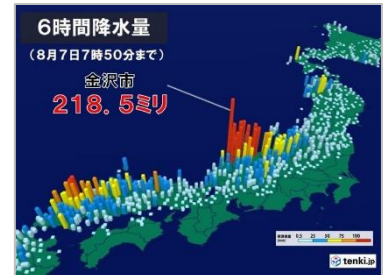


*学校便り作成にあたり、生徒の文章や写真を使用する場合があります。浅野川中学校個人情報取扱規程を遵守しておりますが、お気付きの点がありましたら学校までご連絡ください。

命を守る新ルール！「線状降水帯」の予測が変わりました

近年、毎年のように各地で甚大な被害をもたらしている「線状降水帯」。昨年8月、金沢市で発生した線状降水帯による観測史上最大の豪雨は記憶に新しいところです。実は、5月28日から気象庁の予測発表の仕組みが大きく進化しました。自分の命、そして家族の命を守るために、何が変わったのかを確認しましょう。

線状降水帯とは、発達した積乱雲が次々と発生し、数時間にわたって同じ場所に停滞することで、細長いベルト状に強い雨が降り続く現象です。長さは約50km～300km、幅は約20km～50kmで、どこで発生するか予測が難しく、短時間で一気に川が氾濫したり、土砂崩れが起きたりします。

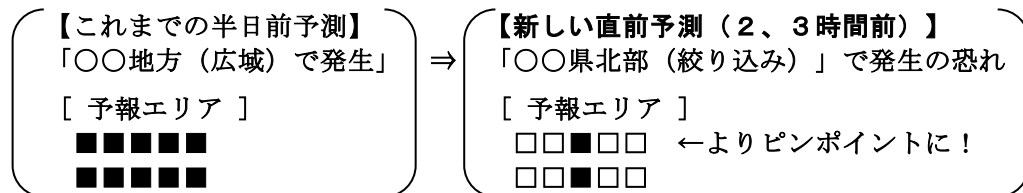


【2025年8月7日 tenki.jp より】

これまでは「半日前」の次は「発生してから」の発表でしたが、今回から「2～3時間前の直前予測」が加わりました。

段階	発表のタイミング	内容と私たちの行動
① 半日前	前日の夜～当日の朝	【準備】「もしかしたら来るかも」と心構えをし、ハザードマップを再確認する。
② 直前予測	発生前の2～3時間前	【警戒】（新設！）自分の地域が対象なら、今のうちに安全な場所（親戚の家や避難所）へ移動を検討。
③ 発生情報	発生した直後	【命を守る行動】すでに外は危険な状態。建物の2階以上や、山から離れた部屋へ移動（垂直避難）。

従来の「県単位」の広い予報から、より「エリアを絞った」予報へと進化しています。



的中率は約50%とされています。「外れた」と考えるのではなく、「空振りでも良かった。次も備えよう」という意識が大切です。

生徒のみなさん、災害時、中学生は「守られる人」から「助ける人」になれる存在です。

(1) スマホを正しく使う

「キキクル（危険度分布）」や気象庁HPで、リアルタイムの雨雲の動きを見る習慣をつけましょう。

(2) 家族に声をかける

「直前予測が出たから、おじいちゃんの家を確認しよう」など、情報を家族に共有してください。

(3) 避難の決断を早める

線状降水帯が発生してからでは、外へ出るのがすでに危険な場合があります。「直前予測」の段階で行動を開始するのが理想です。



予測は100%ではないけれど、備えは100%できます。この機会に、自宅周辺の危険箇所を「ハザードマップ」で改めて確認しておきましょう！

また、登下校時間帯に「直前予測」が発表された場合、市教委の指導のもと、本校では「登校の見合わせ」や「下校時刻の繰り上げ」を判断することがあります。その際は、学校連絡メール及び学校HPにて速やかにお知らせします。